

平成九年一月三日（金）

郷土研究会資料

第二三七回

史跡めぐり

新宿山ノ手・七福神めぐり

越谷市郷土研究会

第二三七回 史跡めぐり

日時 平成九年一月三日(金)

集合 越谷駅東口前 午前九時

行先 新宿山ノ手・七福神めぐり

コース 越谷駅↓秋葉原駅(乗換)↓飯田橋駅

☆ 善国寺 (昆沙門天)

☆ 経王寺 (大國天)

☆ 嚴島神社 (弁財天)

☆ 法善寺 (寿老人)

☆ 永福寺 (福祿寿)

☆ 鬼王神社 (恵比寿)

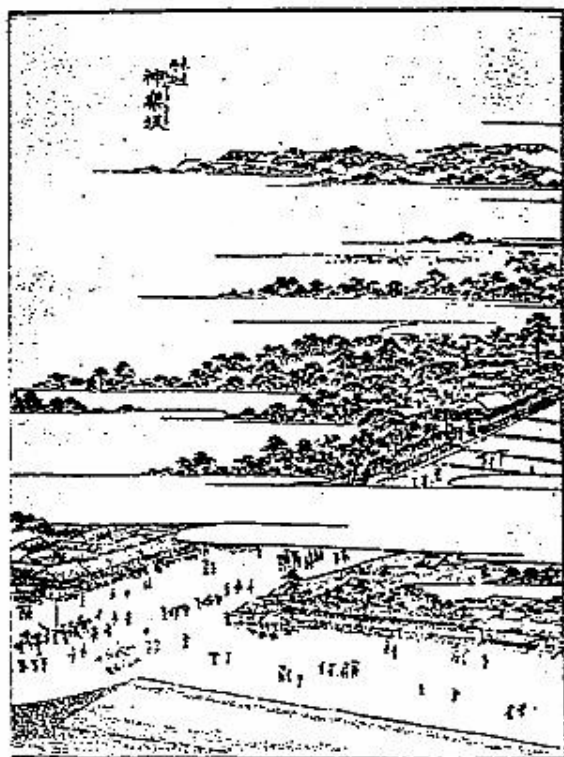
☆ 太宗寺 (布袋尊)

新宿駅(南口) (解散)

案内者 副会長 山田 政信

参加費 金1000円 (含む交通費・資料・保険料他)

主催 越谷市郷土研究会



福神について

仁王經という經典のなかに「七難即滅・七福即生」とあります。つまり、教え導くところを篤く信じ行えば、世の中の七つの大難（太陽・星の異変、火災、水害、風害、旱害、盗難）は消滅し、七つの福が生ずるといふのです。仏教に縁の深い神仏のなかから七人を選び、七福神が考えられた。七福神の絵も家康が天海から、教えられ、絵師に描かせたともいうし、始め吉祥天なども一役買ったというが、弁財天がこれに変わり大いに流行したのは、江戸時代も中期以降である。

新年の縁起ものに、宝船がある。その絵を枕の下に入れて眠ると、佳い初夢を見られると、庶民にもてはやされ、買い求めた古きよき時代の新年のよろこびである。宝船の絵には、七福神と悪い夢をたべてくれるといわれる猿も書き添えさらに

「なかきよのおのねふりのみなめさめ なみのりふねのおとのよきかな」
の句を書いてある。

江戸文化が爛熟してものが豊かになり、江戸の街は繁栄したが、庶民の大半は裏長屋のその日暮らして、「宵越しの銭を持たぬ」と空威張りで、景気が良いようでも、ふところは年中ビイビイであった。身分の差と貧富のへだたりが、大きかったのは江戸の庶民であって、年中夢と金にあこがれていた。富くじが彼らの夢をかきたて又せめて松の内はと七福神詣でをして、今年こそはと望みを託したのである。暮れの酉の市と新年の七福神詣は江戸庶民の願望をふまける江戸の行事であった。

現代の世相も、江戸末期と似ており、幸福ゆきの切符がよく売れたりする世の中であり、七福神巡りも年々盛んとなってゆくことでせう。

福神について

仁王経という経典のなかに「七難即滅・七福即生」とあります。つまり、教え導くところを篤く信じ行えば、世の中の七つの大難（太陽・星の異変、火災、水害、風害、旱害、盗難）は消滅し、七つの福が生ずるといふのです。仏教に縁の深い神仏のなから七人を選び、七福神が考えられた。七福神の絵も家康が天海から、教えられ、絵師に描かせたともいふし、始め吉祥天なども一役買ったというが、弁財天がこれに変わり大いに流行したのは、江戸時代も中期以降である。

新年の縁起ものに、宝船がある。その絵を枕の下に入れて眠ると、佳い初夢を見られると、庶民にもてはやされ、買い求めた古きよき時代の新年のよろこびである。宝船の絵には、七福神と悪い夢をたべてくれるといわれる猿も書き添えさらに

「なかきよのおのねふりのみなめさめ なみのりふねのおとのよきかな」
の句を書いてある。

江戸文化が爛熟してものが豊かになり、江戸の街は繁栄したが、庶民の大半は裏長屋のその日暮らして、一宵越しの銭を持たぬ」と空威張りで、景気が良いようでも、ふところは年中ヒイヒイであった。身分の差と貧富のへだたりが、大きかったのは江戸の庶民であって、年中夢と金にあこがれていた。富くじが彼らの夢をかきたて又せめて松の内はと七福神詣でをして、今年こそはと望みを託したのである。暮れの酉の市と新年の七福神詣は江戸庶民の願望をふまける江戸の行事であった。

現代の世相も、江戸末期と似ており、幸福ゆきの切符がよく売れたりする世の中であり、七福神巡りも年々盛んとなってゆくことぞせう。

【神楽坂】

坂名の由来については、江戸時代からいろいろの説がある。市谷八幡の祭礼で、みこしが牛込御門の橋の上で、かぐらを奏するから、近くの若宮八幡のかぐらがこの坂まで聞こえてくるから、この坂のところに赤城明神のかぐら堂があったから、などであるが、享保十八年（一七三三）刊の「江戸名勝誌」に坂の由来いろいろあるがはっきりしないと述べているように江戸時代中期にはすでに不明となっていた。

【善國寺】（毘沙門天）

鎮護山善國寺。日蓮宗池上本門寺の末寺である。開山は池上本門寺十二代の住持、日愼上人で、文祿四年（一五九五）に麹町に創建したが、寛政四年（一七九二）に類焼し、現在地に移転した。本尊の毘沙門天像は、加藤清正の守仏と伝えられ、甲冑具足に身をかため、左手に宝塔を捧げ、右手に槍を持ち、夜叉鬼を踏みつけて立っている。

東京で縁日に夜店を出すようになったのは、ここが始まりで、明治二十年の頃からである。それ以後、縁日の夜店といえば神楽坂毘沙門天のこととなっていたが、次第に浅草・新宿と、処々でも夜店を出すようになっていった。

（注）宝塔（仏様の無量の知恵と福德を表す）

槍（仏教に敵対する者の退治を表す）

夜叉鬼を踏みつける（人間の幸福を侵害する悪魔を踏みつぶす）

【経王寺】 (大黒天)

日蓮宗。この寺にまつる大黒天像は、日蓮上人の高弟、日法上人の作で、慶長三年(一五九八)に、身延山からこの地に移したものである。たびかさなる火災にも焼けずに残ったので「火ふせの大黒天」と呼ばれて庶民の信仰を集めた。昭和のはじめころからは、開運大黒天としても勧請されるようになった。

墓地には晝屋太兵衛の墓がある。十一代將軍徳川家斉の還曆祈願のために、幕府の援助をえて雑司ヶ谷鼠山に建てられた日蓮宗・感応寺は、芝・増上寺、上野・寛永寺など幕府と密接なつながりのある有力寺院の反発にあり、家斉の死後の天保の改革により破却された。熱烈な信者であった太兵衛は再興をたびたび幕府に願っていたが、入れられず、経王寺本堂において死の抗議をした。この結果感応寺は一旦再興されたが、現在は残っていない。

【敵島神社】 (弁財天)

源義家が後三年の役で奥州に向う途中ここに立ち寄り敵島神社をまつて戦勝を祈願し、鎮定後、お礼のために建てたものと伝える。境内が南北に通り抜けができ、また苦難を切り抜くための弁財社、いわゆる抜弁天として庶民から信仰され、江戸六弁天の一つにかぞえられた。今次の戦災を受け、わずかに手洗石(元禄十六年二月)を残すだけである。

ここに源義家の伝説があるのは、この近くを旧鎌倉街道が通っていたからであろうといわれる。この付近一帯は、江戸時代の犬小屋のあったところといわれる。五代將軍綱吉による「生類憐れみの令」が出されたことにより、飼い主のない犬を収容するため大久保に二万五千坪、後に中野に一六万坪の犬小屋を設けた。またこの付近に犬御用屋敷も置かれた。宝永六年(一七〇九)綱吉の死によって「生類憐れみの令」は廃止され、犬小屋もとりこわされた。

(注) 六弁天ト一本所・洲崎・瀧の川・冬木・上野・東大久保。

【法善寺】 (寿老人)

寿老人を祀るこの寺の本堂には、極彩色の七面大明神像が安置されている。それは身延山の北にある七面山に住む女神で久遠寺の鎮守である。七面大明神の像は本地とされる吉祥天の姿で、右手に鍵、左手に三昧を持っている。

また「法善寺記録」によると、この像は江戸に七面大明神が祀られるようになった最初の勧請像で、駿河国大久保に三沢氏が祀っていたものを、万治年間(一六五八—一六六〇)に当地に移し、寛文三年(一六六三)から、この神像を前にして読経供養が毎年おこなわれるようになったという。現在は九月十三日から一週間宣まれている。

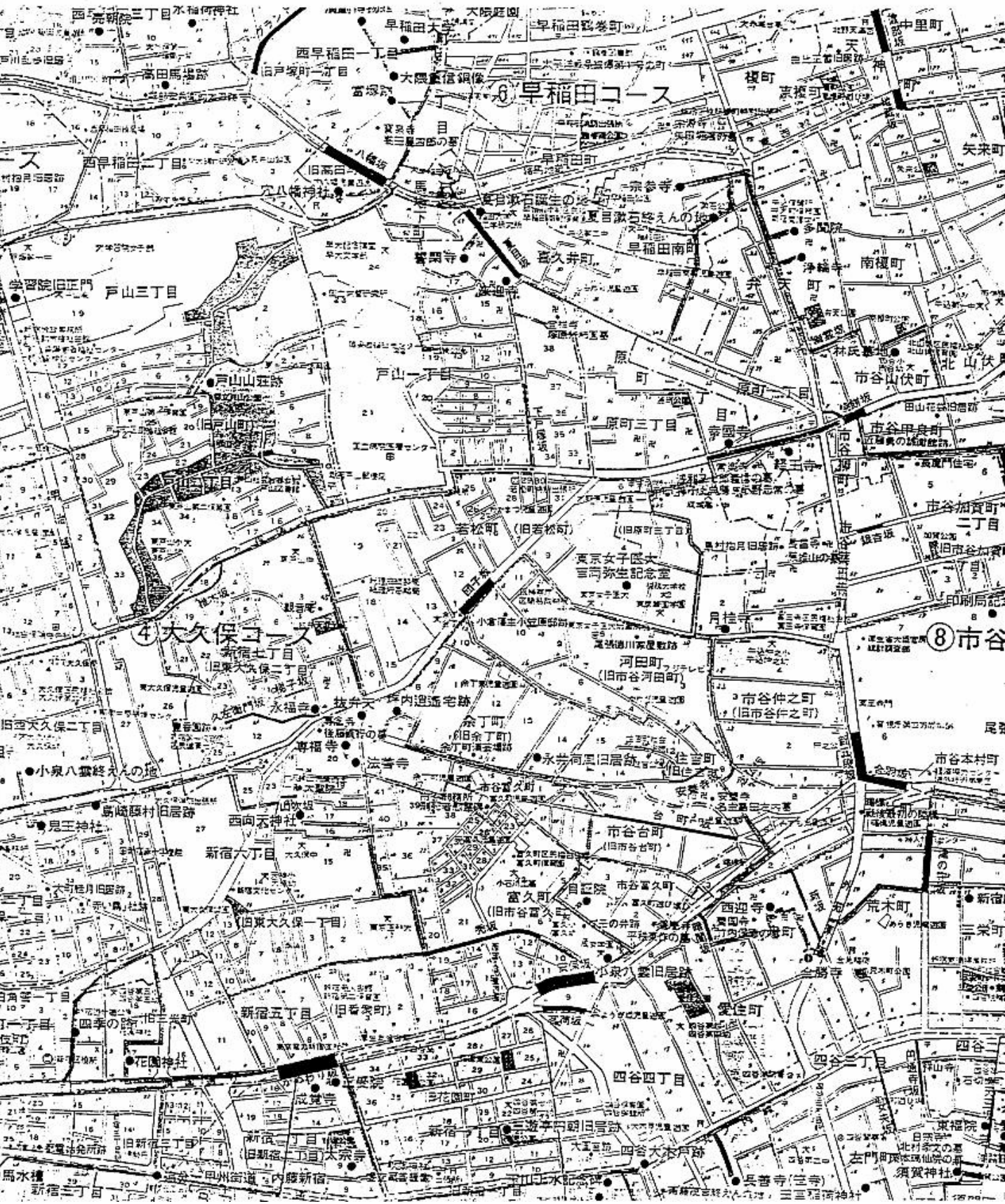
【永福寺】 (福祿寿)

新宿区には珍しい金銅の仏像と菩薩像が迎えてくれる。

宝暦六年(一七五六)建立の釈迦如来座・座高一メートル

嘉永六年(一八五三)建立の地藏菩薩の半跏趺座・座高七九センチ

また墓地には、元禄十一年(一六九八)に寄進された庚申碑や、六角塔の各面に六地藏を浮き彫りにした石塔がある。



① 早稲田コース

④ 大久保コース

⑧ 市谷

西早稲田三丁目 水稲何神社
早稲田大学
大隈重信銅像
早稲田町
早稲田南町
早稲田一丁目
早稲田二丁目
早稲田三丁目
早稲田四丁目
早稲田五丁目
早稲田六丁目
早稲田七丁目
早稲田八丁目
早稲田九丁目
早稲田十丁目
早稲田十一丁目
早稲田十二丁目
早稲田十三丁目
早稲田十四丁目
早稲田十五丁目
早稲田十六丁目
早稲田十七丁目
早稲田十八丁目
早稲田十九丁目
早稲田二十丁目
早稲田二十一丁目
早稲田二十二丁目
早稲田二十三丁目
早稲田二十四丁目
早稲田二十五丁目
早稲田二十六丁目
早稲田二十七丁目
早稲田二十八丁目
早稲田二十九丁目
早稲田三十丁目
早稲田三十一丁目
早稲田三十二丁目
早稲田三十三丁目
早稲田三十四丁目
早稲田三十五丁目
早稲田三十六丁目
早稲田三十七丁目
早稲田三十八丁目
早稲田三十九丁目
早稲田四十丁目
早稲田四十一丁目
早稲田四十二丁目
早稲田四十三丁目
早稲田四十四丁目
早稲田四十五丁目
早稲田四十六丁目
早稲田四十七丁目
早稲田四十八丁目
早稲田四十九丁目
早稲田五十丁目
早稲田五十一丁目
早稲田五十二丁目
早稲田五十三丁目
早稲田五十四丁目
早稲田五十五丁目
早稲田五十六丁目
早稲田五十七丁目
早稲田五十八丁目
早稲田五十九丁目
早稲田六十丁目
早稲田六十一丁目
早稲田六十二丁目
早稲田六十三丁目
早稲田六十四丁目
早稲田六十五丁目
早稲田六十六丁目
早稲田六十七丁目
早稲田六十八丁目
早稲田六十九丁目
早稲田七十丁目
早稲田七十一丁目
早稲田七十二丁目
早稲田七十三丁目
早稲田七十四丁目
早稲田七十五丁目
早稲田七十六丁目
早稲田七十七丁目
早稲田七十八丁目
早稲田七十九丁目
早稲田八十丁目
早稲田八十一丁目
早稲田八十二丁目
早稲田八十三丁目
早稲田八十四丁目
早稲田八十五丁目
早稲田八十六丁目
早稲田八十七丁目
早稲田八十八丁目
早稲田八十九丁目
早稲田九十丁目
早稲田九十一丁目
早稲田九十二丁目
早稲田九十三丁目
早稲田九十四丁目
早稲田九十五丁目
早稲田九十六丁目
早稲田九十七丁目
早稲田九十八丁目
早稲田九十九丁目
早稲田一百丁目



⑧ 市谷コース

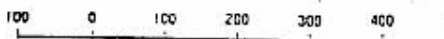
市谷本村町
(旧市谷本村町)

尾張徳川家上屋敷跡

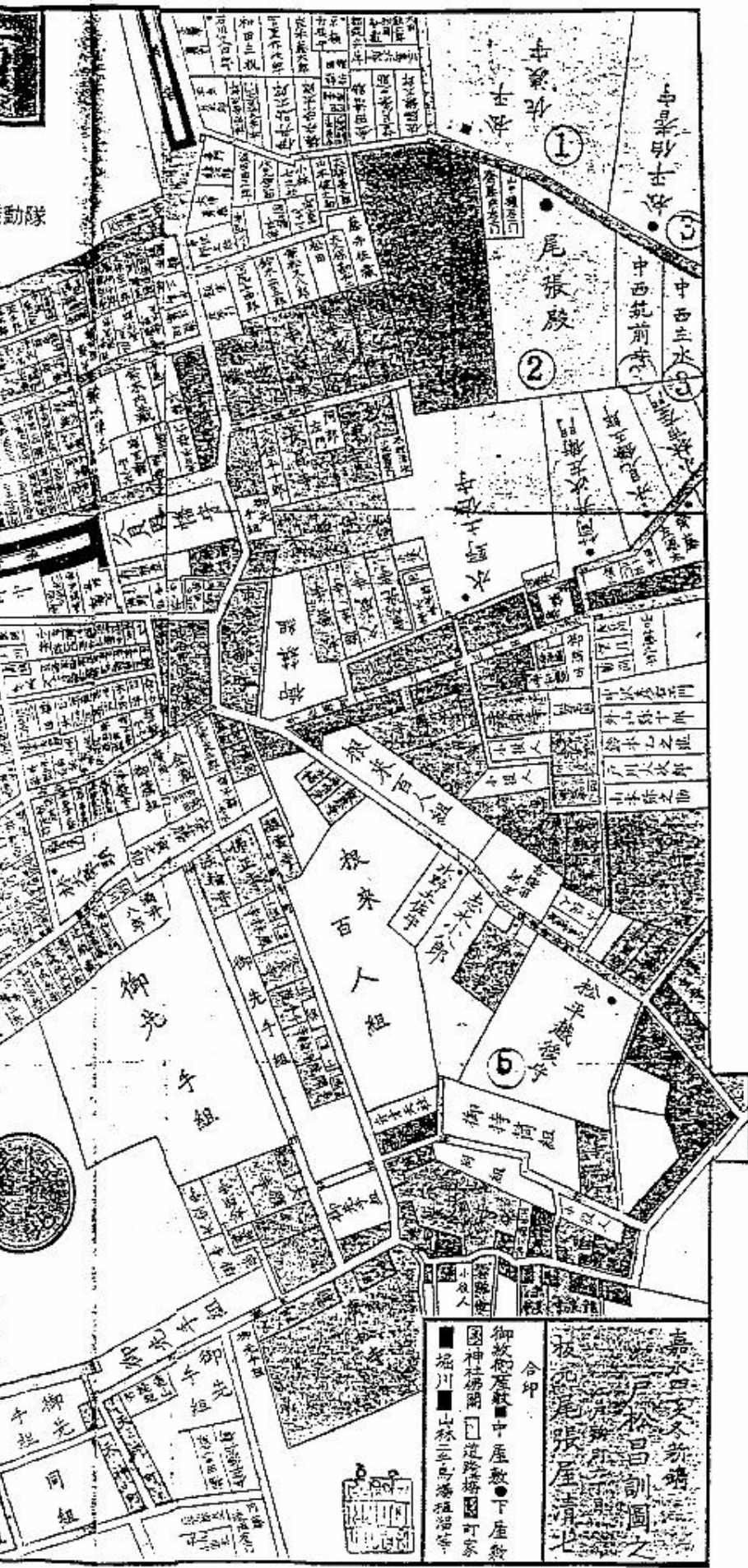
市谷本村町

新宿歴史博物館

1 : 10,000



新宿区立
新宿歴史博物館 発行
片割めぐりヨリ



- (1) 松平佐渡守
フジテレビ
- (2) 尾張殿下屋敷
税務大学校
- (3) 松平伯 守
中西筑前守
中西 主水
東京女子医科大学
及び付属病院
- (4) 水野土佐守
保健会館
- (5) 松平越後守
牛込第二中学校
- (6) 酒井若狭守
一部邸宅を残し一般
に開放された

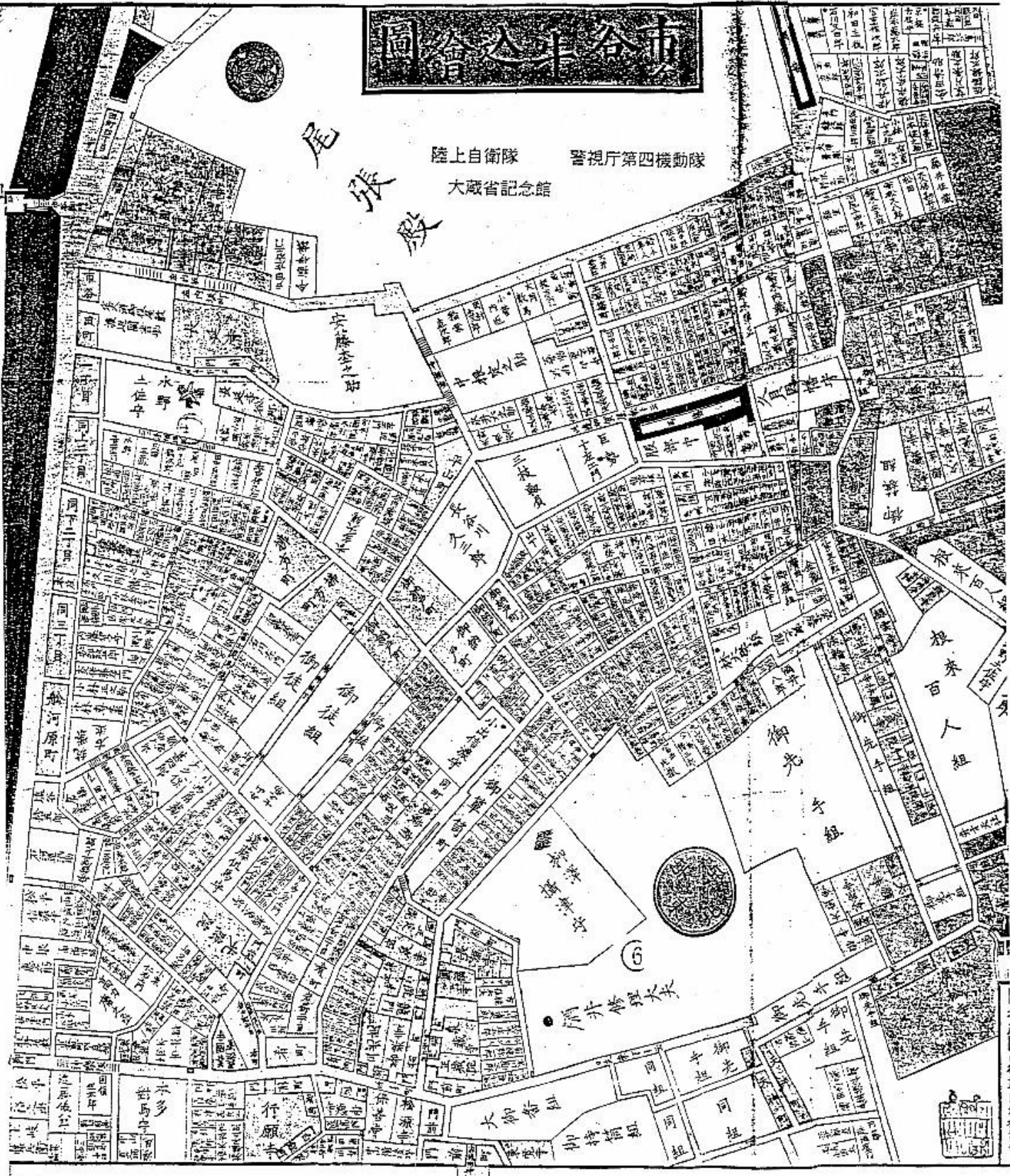
合印
 御教意屋敷■中屋敷●下屋敷
 國神社傍開□道隆橋町家
 ■堀川■山林三島藩祖家
 嘉永四年新築
 戸松昌訓圖之
 板元尾張屋清七

(株) 新人物往来社 発行
 別冊歴史読本
 江戸切絵図 ヨリ

市谷上公會圖

尾張殿

陸上自衛隊 警視庁第四機動隊
大蔵省記念館



水戸

市谷

大蔵省

御光

根来百人組

大蔵省

大蔵省修理

大御所

御光



参考図書

新宿区の文化財
新宿区史跡散歩

(3)
(4)

新宿区教育委員会発行
学生社